

令和元年6月15日現在

機関番号：32631

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04038

研究課題名(和文) 不思議現象信奉と心理学教育

研究課題名(英文) Attitudes towards paranormal phenomena and education of psychology

研究代表者

小城 英子 (Koshiro, Eiko)

聖心女子大学・現代教養学部・准教授

研究者番号：60439510

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：不思議現象を真剣に信奉している「信奉層」、エンターテインメントとして表面的に楽しむ「娯楽的享受層」、中間的な「一般層」、客観的・論理的にとらえる「批判的懐疑層」、一方的に否定し、その信奉者にも批判的な「盲目的懐疑層」、何ら態度が形成されていない「無関心層」の6つの層が見出された。「知的好奇心」が真の批判的思考の獲得を促進し、不思議現象に対する論理的・客観的なとらえ方につながることで、神仏の信奉がレジリエンスを高める一方で、「盲目的懐疑層」はレジリエンスが低いためにストレス状況に陥ることを恐れ、不安や恐怖の発信源となり得るものを全面的に拒否することによって防衛している可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多くの先行研究では、批判的思考を獲得した結果として不思議現象に対する信奉度が低下し、懐疑的になることが暗に想定されているが、いずれの研究においても批判的思考態度尺度と不思議現象信奉との明確な関連性が見出されていなかった。本研究により、真の批判的思考獲得は、不思議現象に対してさえ知的好奇心を抱き、その(非)論理性を追究する志向性であることが示された。また、ウェルビーイングについては「信奉層」において低いことが予想されたが、むしろ、不思議現象を信奉することによってウェルビーイングを維持している可能性が示唆され、これは宗教がもたらす心理的効用にも類似したメカニズムと考えられる。

研究成果の概要(英文)：We found six clusters depending on the attitude toward paranormal phenomena. They are a "Believing Group" who seriously believe in the paranormal phenomena, an "Enjoying Paranormal Phenomena Group" who enjoying the paranormal phenomena as entertainment, an intermediate "Ordinal Group", and a "Critical Skeptic Group" who skeptically wonder phenomena objectively and logically, a "Blind Skeptical Group" who unilaterally deny the paranormal phenomena and are also critical to Believers, and a "Apathy Group" who have not formed a specific attitude. The results of the survey showed that "Intellectual Curiosity" promotes the acquisition of real critical thinking, leading to a logical and objective attitude toward paranormal phenomena. To believe God-Buddhism improves resilience, and Blind Skeptical Group are afraid to fall into stress situations due to their low resilience and may defend themselves by rejecting source of anxiety or fear.

研究分野：社会心理学

キーワード：不思議現象 態度 信念 批判的思考 ウェルビーイング

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 不思議現象とは、現在の科学ではその存在や効果が立証されないが信じられていることのある現象である。1995年のオウム真理教事件を契機に、1990年代後半にはマインド・コントロールや破壊的カルトなどの文脈において不思議現象信奉研究が盛んに行われるようになったが、大半が不思議現象の対象を列挙して信奉度を測定し、不安傾向等の個人特性との相関を分析するという研究モデルであった。海外でも多くの研究が行われており (Tobacyk, & Pirttilä-Bachman, 1992 など)、不安傾向、外的統制傾向、回帰性などについては、国内外のどの研究においてもおおよそ一貫して不思議現象信奉との関連が見出されている。

しかしながら、不思議現象信奉は、「話題として面白い」「怖いから信じない」といった複雑な構造であることから、実態をとらえるためには、「信じている - 信じていない」といった単純な信奉度ではなく、認知や感情も含めた包括的な態度尺度が必要である。

(2) 他方、批判的思考態度との関連は研究によって知見が異なり、未だ明確な解が得られていない。多くの研究では、批判的思考を獲得した結果として不思議現象に対する信奉度が低下し、懐疑的になることを暗に想定しているが、たとえば、小城・坂田・川上 (2008) では、不思議現象に対する肯定的態度は盲目的信奉を意味しているわけではなく、真に批判的思考態度に基づいて判断し、自身の体験や視野にはない出来事に対しても一方的に否定せずに柔軟に情報処理を行うことで生じる可能性や、反対に、不思議現象に対する強固な懐疑的態度は真に批判的思考に基づいた判断ではなく、複雑な情報処理を回避して既成の態度を固持することで生じる可能性が示唆されている。このことを踏まえ、批判的思考を獲得した結果には、不思議現象に懐疑的になる場合と視野が広がって肯定的になる場合の両方のパターンがあり、一方で、批判的思考を獲得できていないからこそ、不思議現象を盲目的に否定する場合もあり、これらの態度が混在するために批判的思考と不思議現象信奉との間に明確な関連が見出せていない可能性が考えられる。

(3) 従来の研究では、破壊的カルト問題等を背景に、不思議現象信奉をどちらかといえばネガティブにとらえ、不思議現象信奉を低下させることを主題としていた傾向がある。しかし、オウム事件を経てなお不思議現象に対する人々の関心は高く、時代に合わせて対象や形態を変えながら常に霊信仰を持ち続けてきたことが示唆されており (小城・坂田・川上, 2007) この継続性の根底には日本人の無宗教の宗教性 (堀江, 2007) が存在していると考えられる。このような人為を超えた、超越的な存在やパワーを信じたい欲求が抑圧され得ないものであるならば、それを前提とした上で、不思議現象との向き合い方を解明していく必要がある。

ウェルビーイングの文脈でとらえれば、宗教がそうであるように、不思議現象信奉も一概に否定されるべきものではない。たとえば、法座が参加者の精神的健康を向上させる効果を有している (松島・小林・宮下, 2014) ことなどから、不思議現象信奉もウェルビーイングに同様の効果をもたらしている可能性がある。その一方で、憑依や人格変換といった精神障害の契機となる場合 (渡辺・榎本・松本, 1980) や、嗜癖に陥る場合、あるいは強迫行為の一種として不思議現象を信奉する場合などもあり、不思議現象信奉と精神的健康との関連は多義的で複雑であると考えられる。

2. 研究の目的

(1) 不思議現象に対する態度尺度の作成

不思議現象に対する態度尺度は作成されているが、懐疑的態度についてはマス・メディアが娯楽的に演出した UFO や宇宙人などに特化した限定的否定、精緻な情報処理を回避した盲目的な否定、不思議現象信奉を非科学的として揶揄する風潮への同調、不思議現象の存在を想定した場合の恐怖を打ち消すための反動的な否定など多様な側面があると推測される。こうした多様性を仔細に測定できる尺度を開発する。

(2) 不思議現象に対する態度と批判的思考

従来の研究では、批判的思考態度尺度 (平山・楠見, 1994) が用いられることが多かったが、データベースシンキング尺度やクリティカルシンキング尺度も追加し、さらに態度ではなく批判的思考能力を測定する課題などを用いて、不思議現象に対する態度と批判的思考との関連を解明する。

(3) 不思議現象に対する態度とウェルビーイング

不思議現象に対する態度と、精神的健康やレジリエンスといったウェルビーイングに関わる側面との関連を解明する。

3. 研究の方法

第1に不思議現象に対する態度尺度 (小城・坂田・川上, 2008) の改訂、第2に批判的思考を能力として測定する客観的指標の作成ならびに不思議現象に対する態度尺度との関連の解明、第3にウェルビーイングと不思議現象に対する態度尺度との関連の解明を、質問紙調査によって行った。

4. 研究成果

(1) 不思議現象に対する態度は、「占い・呪術嗜好性」「スピリチュアリティ信奉」「娯楽的享受」「恐怖」「霊体験」「懐疑(新)」「信奉者批判」「知的好奇心」「社会的現実を根拠とした否定」「中立」の10因子で構成されることが見出された。この10因子の得点パターンに基づいて回答者を類型化したところ、不思議現象を真剣に信奉している「信奉層」、エンターテインメントとして表面的に楽しむ「娯乐的享受層」、すべての得点が中間的な「一般層」、不思議現象に対して客観的・論理的にとらえる「批判的懐疑層」、不思議現象を一方的に否定し、その信奉者にも批判的な「盲目的懐疑層」、不思議現象に対して肯定や否定といった態度を形成する以前に関心のない「無関心層」の6つの層が見出された。

(2) 不思議現象に対する態度の下位因子のうち、多くの批判的思考に関する因子との間に相関が認められたのは、「不思議現象に対する知的好奇心」であった(表1)。すなわち、非論理的とも思える不思議現象に対してさえ客観的にとらえ、その(非)論理性を追究し、そのプロセスを知的に楽しむ志向性が、真の批判的思考獲得と考えられる。

表1 不思議現象に対する態度と批判的思考との相関 * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

		占い・呪術嗜好性	スピリチュアリティ信奉	娯乐的享受	霊体験	懐疑(新)	信奉者批判	知的好奇心	社会的現実を根拠とした否定	中立
批判的思考態度	論理性への自覚	-.17*	-.12	.01	-.01	.17*	.14	.07	.14	-.12
	探究心	.03	.18*	.19*	.12	.02	-.08	.29**	-.08	.03
	客観性	.12	.03	.15	-.02	-.02	-.13	.26**	-.10	.05
	証拠の重視	-.03	-.00	.06	-.01	.21**	.19*	.19*	.08	.04
データベースドシンキング	状況整理力	-.02	-.00	.13	.10	.27**	.16	.48**	.29**	.06
	分析力	-.06	-.02	.11	.00	.27**	.20	.43**	.22*	.13
	判断力	-.01	-.072	.01	-.04	.23*	.22*	.33**	.21*	.06
クリティカルシンキング	議論の明確化	-.01	.01	.13	-.02	.10	.07	.28**	.08	.07
	隠された前提	-.01	.01	.27**	.02	.03	.14	.35**	.15	.02
	根拠の確かさ	-.10	-.08	.08	.01	.16	.10	.36**	.08	.06

また、馬の売買による損得計算をモチーフとして批判的思考を測定する課題の正解者は、不正解者に比べて、不思議現象に対する態度の「中立」、批判的思考態度尺度の「客観性」、データベースドシンキング尺度の「分析力」が高い傾向が認められた(表2)。

表2 馬課題の正誤による各尺度の得点比較

尺度		正解者	不正解者	t 値
不思議現象に対する態度(中立)	n	67	73	2.082*
	m	4.22	4.00	
	SD	0.51	0.71	
批判的思考態度(客観性)	n	68	75	2.312*
	m	3.62	3.38	
	SD	0.56	0.64	
データベースドシンキング(分析力)	n	53	45	2.761**
	m	3.54	3.13	
	SD	0.69	0.78	

(3) ウェルビーイングについては先述の「信奉層」において低いことが予想されたが、精神的健康や幸福感と不思議現象に対する態度との間に明確な関連性は見出されておらず、「スピリチュアリティ信奉」とレジリエンスの間に正の関連が認められ(表3)、「盲目的懐疑層」においてレジリエンスが低い傾向が認められたにとどまった(図1)。すなわち、神仏の信奉がレジリエンスを高める一方、「盲目的懐疑層」はレジリエンスが低いためにストレス状況に陥ることを恐れており、不安や恐怖の発信源となり得るものを全面的に拒否することによって防衛している可能性がある。一方で、結果としての精神的健康や協調的幸福感に差が認められなかったのは、各層がそれぞれに適したやり方でウェルビーイングを維持しているためと推測される。

表3 不思議現象に対する態度とレジリエンス関連尺度との相関 * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

	占い・呪術的嗜好性	スピリチュアル信仰	娯楽的享受	霊体験	懐疑(新)	信奉者批判	知的好奇心	社会的現実を根拠とした否定	中立
新奇性追求	.13	-.16	.21	.13	-.21	-.29*	.14	-.05	.22
感情調整	-.13	-.08	.18	.06	.11	.18	.10	.22	-.15
肯定的な未来志向	.28*	.37**	.03	-.02	-.01	-.04	.05	.21	.25
成長動機	.36**	.28*	.08	-.08	-.14	-.21	.09	.08	.37**
現実自己の向上	.27*	.19	.20	.12	-.16	-.19	.10	.04	.31*
個人的達成欲求	.21	.23	.04	.02	.11	.07	.16	.39**	.19

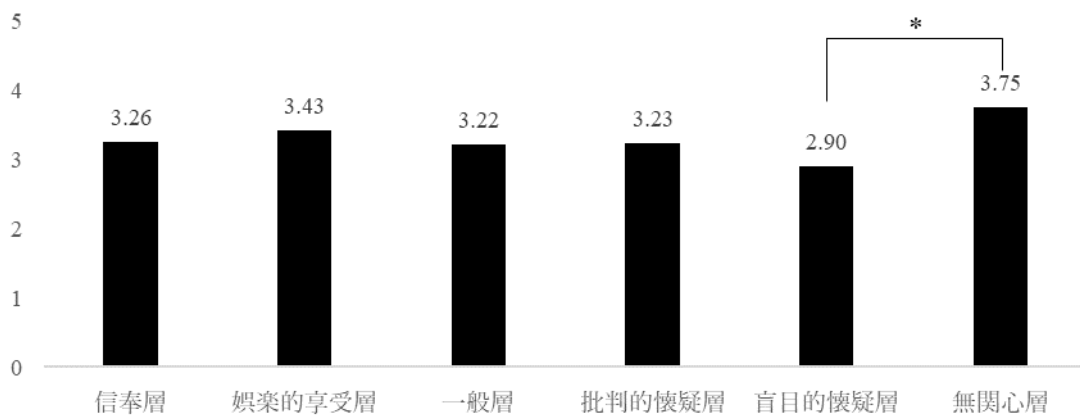


図1 問題解決志向におけるクラスタ比較 * $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

<引用文献>

平山るみ・楠見孝 (2004). 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響 - 証拠評価と結論生成課題を用いての検討 - 教育心理学研究, 52, 186-198.

堀江宗正 (2007). 日本のスピリチュアリティ言説の状況 日本トランスパーソナル心理学・精神医学会 (編) スピリチュアリティの心理学 せせらぎ出版 pp.35-54.

小城英子・坂田浩之・川上正浩(2007). ブームとしての不思議現象 聖心女子大学論叢, 109, 35-74.

小城英子・坂田浩之・川上正浩(2008). 不思議現象に対する態度;態度構造の分析と類型化 社会心理学研究, 23, 246-258.

松島公望・小林正樹・宮下一博(2014). 宗教的实践が精神的健康(不安および主観的幸福感)に与える影響: 仏教系新宗教 A 教団信者における準実験研究, 千葉大学教育学部研究紀要 62, 107-115.

Tobacyk, J. J., & Pirttilä-Backman, A. M.(1992). Paranormal Beliefs and their Implications in University Students from Finland and the United States, *Journal Of Cross-cultural Psychology*, 23, 59-71.

渡辺雅子・榎本貞保・松本 啓(1980). 「占い遊び」を契機として発症した心因性精神病について 精神医学 22, 1343-1348.

5. 主な発表論文等

小城英子、坂田浩之、川上正浩、不思議現象に対する態度の発達、聖心女子大学論、査読なし、Vol.125、2015、pp.99-116.

https://u-sacred-heart.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=138&item_no=1&page_id=38&block_id=92

川上正浩、坂田浩之、不思議現象信奉と批判的思考の関連に関する検討：測定尺度の改訂、大阪樟蔭女子大学研究紀要、査読なし、Vol6、2016、p.267.

https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_view_main_item_detail&item_id=4047&item_no=1&page_id=3&block_id=24

〔雑誌論文〕(計 2 件)

〔学会発表〕(計 16 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：坂田 浩之

ローマ字氏名：(SAKATA Hiroyuki)

所属研究機関名：大阪樟蔭女子大学

部局名：学芸学部心理学科

職名：准教授

研究者番号(8桁)：70340627

研究分担者氏名：川上 正浩

ローマ字氏名：(KAWAKAMI Masahiro)

所属研究機関名：大阪樟蔭女子大学

部局名：学芸学部心理学科

職名：教授

研究者番号(8桁)：40242789

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。